

- ◆総合知は、単なる文理融合では無く、社会の変革をもたらす「新たな価値の創出」を目指す概念
- ◆イノベーションは知の結合による社会経済の変革であり、その知の一つとして科学技術は重要な位置を占める。総合知とは共通するところも多い。
- ◆大学は我が国の知的基盤を担い、産学連携等を通じてイノベーションの創出に貢献する役割を期待されている。

自己紹介

赤池伸一 上席フェロー/内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官など

NISTEP： 科学技術・イノベーション政策の研究のマネジメント・アウトリーチ
研究開発投資の経済効果分析（池内RIETI上席研究員と共同研究）

内閣府/文科省： EBPM、オープンサイエンス（ジャーナル問題など）

「総合知」の基本的考え方及び戦略的に推進する方策 中間とりまとめのポイント

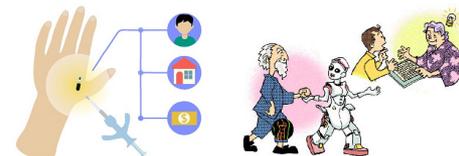
第6期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえ、総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会での検討を経て、本年3月に中間とりまとめ。

いま、なぜ、「総合知」が必要なのか

世界の**研究や技術開発の目的の軸足**が、「持続可能性と強靱性」、「国民の安全と安心の確保」に加えて、「一人ひとりが多様な幸せ (well-being) を実現できる社会」に移りつつある。

我が国の科学技術やイノベーションが、世界と伍していくためには、

「あらゆる分野の知見を総合的に活用して社会の諸課題への的確な対応を図る」ことが不可欠。



「総合知」の基本的考え方

総合知

多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと

- 多様な「知」が集うとは、属する組織の「^{のり}矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うこと。
 - 新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、科学技術・イノベーション成果の社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすこと。
- これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることが、科学技術・イノベーションの力を高める

総合知の活用イメージ

① 属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」を持ち寄る



② ビジョンの形成

バックキャストによる課題の整理と
ビジョンの形成を繰り返す。

③ 課題の整理

バックキャスト

ビジョン



④ 連携による課題解決

⑤ 目指す未来の実現



複雑な課題

「総合知の活用」は、それ自体が目的ではなく、
新たな価値の創造や課題解決により社会変革するための手段

● 新たな価値を創出

～科学技術・イノベーション
成果の**社会実装**を推進～

- 持続可能性や一人ひとりの多様な幸せ (well-being) に真正面から向き合う

科学技術・イノベーションを、我が国の「勝ち筋」の源泉に

NISTEP/内閣府赤池
2023/01/25